



巻頭ご挨拶

学校法人駒澤大学総長
駒澤会名誉会長

永井 政之

「駒澤愛」を絆にさらなる活躍を

駒澤大学には教育後援会、同窓会、そして駒澤会という、大学と深い縁を持つ3つの組織があります。前2者は自動的入会ですが、駒澤会は御子女の卒業後も、教育後援会の活動を通して培った会員相互の親交をさらに深めつつ、本学の発展に寄与しようと、自主的に入会された皆さまによって運営されます。令和3年には創立50周年を迎え、現在の会員数は170余名とのこと。

「駒澤愛」を絆とし会員相互の親睦を基本とする駒澤会。その多岐にわたる活動の様子は、年2回刊行される「駒澤会だより」で報告されますが、特筆すべきは、返還義務のない奨学金「ゆめ基金」の給付事業でしょう。今年度は最大40名を想定とのこと。対象となった奨学生は累計1,200人を超え、現に社会のさまざまな分野で活躍中と仄聞しています。このほか平成29年の開校130周年記念棟「種月館」建設に際しては望外の御寄付を賜ったことも特記されるべきでしょう。

令和元年にはじまる新型コロナウイルスの蔓延も落ち着きを見せる昨今です。平穏な世の中に戻った感すらあります。しかしコロナ禍が社会に大きな変化をもたらしたこと、誰もが知るところです。何よりも「人」と「人」との関係において影響が顕著になっているように思います。

日進月歩とも言えるSNS等の発展は、「情報伝達」においては便利さを増す一方、「心のつながり」の面では、むしろ後退して「人間疎外」の状態に陥ってはいないでしょうか。個人主義、一国主義、大国主義はその代表格でしょう。

そんな現代だからこそ道元禅師が強調される「面授」――師匠と弟子の「心」のつながりは対面でしかありえない――を再認識したいと思いますし、「駒澤愛」によって結ばれた本会の存在は、会員相互にとっても、また大学にとっても意味あるものだと確信しております。



学校法人駒澤大学学長
駒澤会名誉副会長

村松 哲文

駒澤大学仏教学部教授。専門は仏教美術史、禅美術。中国を中心とした仏教文化圏の美術史を研究し、大学での授業・研究に加え、多数の市民講座の講師やNHK Eテレなどテレビ番組にも出演。

2025年4月より駒澤大学学長に就任。20年後も輝き続け、仏教の教えと禅の精神に基づく「誰からも愛される大学」を目指す。

「智慧・慈悲・縁起」が育む学びの場

平素より駒澤大学に対し、格別なるご高配とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私はこの4月より学長を拝命いたしました。これまで本学で「仏教美術史」を専門とし、仏教を背景とした文化や思想に触れながら教育・研究に携わってまいりました。そうした歩みを礎に、「智慧・慈悲・縁起」という仏教的価値観を教育の根幹とし、「誰からも愛される大学」の実現を目指して尽力してまいります。

駒澤会の皆様におかれましては、学生への奨学金給付をはじめ、長年にわたり本学を力強くお支えいただいておりますこと、深甚なる感謝を申し上げます。これまで「駒澤会奨学金」を受け取った学生は1,200名を超え、まさに本学の教育と学生生活を支えるかけがえのない力となっております。

本学は、創立以来、仏教に根ざした教育を大切にし、「智慧」を深めると同時に、「慈悲」を実践し、他者とのつながりを大切にしてきました。少子化が進み、社会が変容する今こそ、皆様との「ご縁」をより一層大切にしながら、学生一人ひとりが真摯に学び、心豊かに成長できる場としての大学を、皆様と共に築いてまいりたいと存じます。今後とも本学の教育・研究活動への変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、駒澤会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

Topic

次頁の記事は、村松学長が禅文化歴史博物館長時代にご尽力されたものです。ぜひご一読ください。

禅文化歴史博物館が国の登録有形文化財に決定



博物館内で行われた記念式典の様子（令和7年7月1日）

駒澤大学禅文化歴史博物館 学芸員 佐藤 大樹



駒澤大学は開校から143年、駒沢の地に移転してから112年が経ちました。基本的にワンキャンパスを貫いてきた本学は、限られた敷地の中で、新しい建物を建てるには古い建物を壊さなければならないという宿命を背負ってきました。

それでもキャンパス内には建築から半世紀以上を経た建物が多く残っています。7号館（1962年）、4号館（1968年）、禅研究館（1975年）と並ぶ中で、ひととき長い歴史を持つ建物が昭和3（1928）年から使用される禅文化歴史博物館（旧図書館・耕雲館）です。

この建物、本学卒業生の間では在学した年代ごとに思い出が異なります。昭和48（1973）年以前だと図書館、平成14（2002）年以前では地下にあった売店、平成14年以降では博物館を記憶している方が多いのではないでしょうか？用途は時代と共に変遷しますが、約100年間の卒業生が同じ建物を話題にできる、本学にとってこの建物の持つ何よりの価値です。

さて、本学の外から見ても、この建物はたいへん貴重です。大正12（1923）年の関東大震災の復興期に建てられた図書館として都内に残る稀少な事例であり、この時代に隆盛したフランク・ロイド・ライトの影響を受けたライト風建築の第一人者・菅原榮蔵の代表作でもあります。1999年に東京都選定歴史的建造物、2025年には国の登録有形文化財となりました。

本年3月に開催された文化審議会の答申では、新たに登録される有形文化財（建造物）の主な事例として紹介されるなど、昨今は各種メディアの取材も増え、多くの方々に興味関心をお持ちいただいています。

7月1日（火）には登録決定記念式典を開催しました。式典は禅文化歴史博物館1階常設展示室で行い、本学小島理事長、永井総長、村松学長をはじめとする本学関係者、登録有形文化財への申請や現在開催中の企画展開催にご助力頂いた皆様、駒澤会一戸会長にもご参加を頂きました。

式典終了後、東洋大学名誉教授・建築家の内田祥士先生による第45回禅博セミナー「建設から営繕へー駒澤大学 耕雲館・洋館...」（於中央講堂）を開催し、100名以上の方々が聴講する盛況ぶりでした。ご講演では、建物さえもスクラップアンドビルドの名のもとに消費される時代に、本学キャンパス内で禅文化歴史博物館の建物が現在まで残されている意義をお話し頂きました。建物を長期的に活用する営繕の必要性を説く内田先生のお話を拝聴し、建物を維持することで繋がる、人々の想いがあることを改めて実感いたしました。

2025年駒澤会新年賀詞交歓会



総務部
間 美和子



令和7年2月11日(火・祝)、セルリアンタワー東急ホテル39階「ソレール」にて、「駒澤会新年賀詞交歓会」が開催されました。当日は、駒澤会会員のほか、駒澤大学、教育後援会、同窓会から、総勢約33名の方々にご出席を賜りました。

桐畑秀司総務部長の司会進行により始まり、まず始めに、一戸隆男駒澤会会長より開会の挨拶がありました。昨年の活動のいちばんの成果として、駒澤会奨学金を5年ぶりに37名の学生に支給し、また創立以来、累計で1,200名を超える学生支援ができたこと、全国にいる会員の皆さまの思いをお預かりし、長きにわたり、会の運営、奨学金の授与ができていくことへの誇りと感謝の意を述べられました。

次に来賓として、駒澤会名誉会長の駒澤大学・永井政之総長、駒澤会名誉副会長の駒澤大学・各務洋子前学長、教育後援会の山本健前会長、同窓会の大石孝会長よりご挨拶を賜りました。

永井総長より、「お子様達を送り出したけれど、いろいろな繋がりで集まろうよ、駒澤大学をチェックをかけながら見ていこうよ、という方々が増えていることが、長きにわたって大学の健全なる発展につながっていくのだろう」とのお言葉をいただきました。

各務前学長からは、陸上競技部の箱根駅伝復路優勝、パリ五輪のブレイキン女子で駒澤大学卒業生の湯浅亜実さんの金メダル獲得、ボクシング部が全日本大学ボクシング王座決定戦で創部以来の優勝を成し遂げたこと、卓球部のリーグ戦での活躍、スポーツのみならず文化系サークルでもゼミのコンテストで優勝があったり非常に頑張っている、とのご報告がありました。学長としての任期を無事終えられたことに、感謝の意を述べられていました。

駒澤大学「三本の矢」の結束



山本前教育後援会会長



一戸駒澤会会長



大石同窓会会長

続いて山本前会長は、子供が大学を卒業しても、保護者が大学との繋がりを継続させてくれるのが駒澤会だと思う、奨学金授与など駒澤会の趣旨が今後より多くの在校生のご父母様へ伝えられるようにしていきたい旨、語られました。

大石会長は、同窓生と大学相互だけでなく、どれだけ現役の学生の役にたてるか、ということに力を入れていると述べられました。また同窓会奨学金と同窓会表彰について、多方面で大活躍されている同窓生についてご紹介いただきました。

駒澤会・教育後援会・同窓会は、駒澤大学「三本の矢」と呼ばれ、各団体がそれぞれの理念で大学や在校生を支えており、とても頼もしく感じました。

森屋顧問による乾杯のあと、美味しい料理をいただきながら、和やかに懇親を深めることができました。各部署委員の紹介が行われ、大抽選会では会場全体で盛り上がりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、山田副会長の閉会のご挨拶の後、記念撮影に移りました。各務前学長とも一緒に写真を撮らせていただき、感激いたしました。

教育後援会の皆様ともお会いできて、とても嬉しかったです。一步踏み出してみると出会いが繋がり、応援する力になるのだと思いました。



年齢・立場を超えて
大学関係者が集う貴重な機会です



永井総長にも
ご出席いただきました



一戸会長特別賞を巡っての
じゃんけん大会決勝戦

令和7年度委員総会開催報告

総務部副部長 堀内 和代



議 題

【審議事項】

1. 令和6年度各部活動報告
令和7年度活動計画の件
2. 令和6年度決算及び
基金管理状況報告の件
3. 令和6年度会計監査報告の件
4. 令和7年度予算案の件
5. 駒澤会会則及び各種規程改正の件

【報告事項】

1. 駒澤会参与委属の件
2. 令和7年度駒澤会年間行事予定表
3. 駒澤会入会者数・奨学金について

令和7年5月17日（土）11時00分より、駒澤会委員総会が深沢キャンパス2-1の講義室で開催されました。

出席者数30名で桐畑総務部部長の司会により進行し、今年度より駒澤会名誉副会長になられた、村松学長の簡単な経歴の説明がありました。学長の専門は仏教美術史、禅美術で中国を中心とした仏教文化圏の美術史を研究し、大学での授業や研究に加え、多数の市民講座の講師やテレビ番組(NHK等)にも出演されておられ、20年後も輝き続け、仏教の教えと禅の精神に基づく「誰からも愛される大学」を目指されているということでした。

その後、会則に則り一戸会長が議長を務め、以下の議題について報告・審議し、全て、了承されました。

今年度の審議事項の中で駒澤会会則の改正について、「改正内容」として「委員総会」から「委員」の文言を削除するとあり、了承されたことにより来年度から「委員総会」ではなく、【駒澤会総会】の案内に変わります。



総会の最後に新年度の参与に就任する、教育後援会の現会長と副会長のお二人に、一戸会長より委嘱状が手渡されました。

総会後は、深沢キャンパスの日本間で懇親会が行われ、教育後援会からの8名も含め計38名が参加しました。一戸会長と、村松学長の挨拶、森屋顧問の乾杯と、和やかに進み、途中、各部の人達や、教育後援会の方々の紹介が行われ、山田副会長の締めで懇親会は終わりました。

駒澤会は他の大学にはない会であり、学生のためにもこの会を継続させていってほしいと切に願っており、一人では無理でも大勢が集まれば可能になっていくと信じて、今後も協力していきたいと思っております。

新参与からご挨拶いただきました



井垣教育後援会会長



兼松教育後援会副会長



前参与の大山教育後援会顧問

本年より駒澤会にご入会いただきました！



115畳ある深沢キャンパス日本館和室での懇親会

総務部からのお知らせ

会員の方より、「委員総会を『総会』に変更した方が、もっと気軽に参加してもらえるのでは」とのご意見をいただき、総務部内で検討し、令和8年度より「総会」に名称変更することになりました。

総務部では会員の皆さまからのご意見を元に、より良い会を目指して活動しています。ぜひ各種イベントにもご参加いただき、皆さまのご意見をお寄せください。

「初夏の親睦会」に参加して

厚生部 滝沢 憲示



お台場停泊中に船上にて



屋形船「かみや」さん所有船の1艇

6月7日（土）に「初夏の親睦会」が行われました。今年は、厚生部石井さんのご紹介の屋形船に乗って、東京湾を遊覧しました。

16時にJR蒲田駅東口に集合して、「屋形船かみや」の送迎バスに乗車して、羽田の船着場から乗船しました。教育後援会の千年副会長、総務部の今村さんにも参加して頂き、22名の参加となりました。羽田空港に駐機中の飛行機が数機見え、屋形船は多摩川から海老取川を通過して北へ進みました。一戸会長の挨拶の後、森屋顧問の乾杯の音頭から親睦会がスタート。

揚げたての天ぷらなどの食事をしながら景色を楽しみ、船は進んで行きました。船内はカラオケもあり、吉田厚生部長の歌も出て盛り上がりました。船の外には停泊中の巡視船「拓洋」と「昭洋」、帆船「日本丸」も見えました。お台場を右に見ながら、レインボブリッジをくぐり、左に東京タワーを見て、浜離宮の中に入ってから隅田川を上って行きました。



東京スカイツリーが近くに見える所に停船し、屋形船の屋上に出て景色を見て写真を撮りました。復路は浜離宮の中に入らずに、ほぼ往路と同じコースを戻りました。私はお台場のフジテレビの建物を見ると、フジテレビが 新宿区河田町に在った昭和48年に「クイズグランプリ」に出場し、水曜日か木曜日のチャンピオンになった時の事を思い出します。

屋形船は夕焼けの中を山田副会長の閉会の言葉と堀副会長の一本締めで羽田の船着場に戻りました。下船後、送迎バスでJR蒲田駅東口まで送ってもらって解散しました。

屋形船は貸切りだったので、他のグループに遠慮することもなく、多くの参加者に好評でした。



幹事の厚生部の皆さま



各々の十八番や懐かしの名曲を熱唱



来年も楽しい企画で盛り上げます！
ぜひご参加ください！

厚生部一同



卒業式で父母などの皆さんに入会を勧誘

広報部 古橋 明尊



駒澤会入会勧誘コーナー（種月館）



家族がライブ配信を見る教場



入会を呼び掛ける堀副会長

3月23日と24日の2日間、学位記授与式（卒業式）が行われました。7つの学部と8つの研究科、法科大学院あわせて3,224人が、学び舎を巣立っていきました。

駒澤会では、式に合わせて来校した父母などの皆さんに、入会の案内をしました。式典会場の記念講堂に入れるのは卒業生に限られているため、ご家族は種月館の教場でライブ配信を見る形になっています。このライブ配信の開始前に、教場で駒澤会を紹介することが許可されたため、堀副会長などが教壇に立って、成績優秀な学生に奨学金を贈っていることや、懇親・学習などの駒澤会の活動を説明し、入会を呼びかけました。

また種月館内に机を設置してチラシを用意し、出入りする父母などの皆さんに手渡しして入会の案内をしました。

式は学部研究科などを4つに分けて、2日間、午前と午後実施され、これに合わせて広報部を中心にのべ10人が入会の案内の作業に取り組みました。

新しい年度に入り、7月12日現在で、新しく26人の方々が入会しました。会員数の維持と増加は、組織としての重要な課題です。学生さんが在学している間に父母などの皆さんに駒澤会を知ってもらうこと、活動の意義と楽しみを充実させて入会したいと思う会にしていくことに、引き続き取り組んでいく必要があります。



来場者1人1人にチラシを配布



記念撮影をする卒業生たち

Information

基金管理委員会 基金管理状況のお知らせ

基金管理委員会より、前回会報にてご報告した以降の運用状況について、以下のとおりお知らせいたします。

運用先	令和6年12月～令和7年 6月までの利金	備考
野村証券	255,210円	三菱UFJ、SB社債
みずほ銀行	421円	普通預金利息
世田谷信用金庫	8,927円	定期預金利息
合 計	264,558円	

各部入部のお誘い 一緒に活動しませんか？

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。

部長
桐畑 秀司



厚生部

会員の皆さまが楽しく有意義な時間を過ごせるよう、各種行事を検討しています。

部長
吉田 稔



広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、様々な意見を出し合い和やかに進めています。

部長
齋藤 和子



入部ご希望の方は事務局までご連絡ください。

新規入会者芳名録 ご入会ありがとうございます

長島 芳明様	元村 久美子様	服部 啓勝様
近藤 顕彦様	片岸 道信様	塩川 左由美様
田坂 康様	浅賀 貢様	高江洲 直美様
大山 朱美様	松山 慎一様	古澤 吾郎様
國峯 伸之様	木村 統后様	他、匿名12名

令和7年4月1日～7月12日までにご入会いただいた方のご紹介です。入会時にご芳名の公表がご不明だった方は匿名とさせていただきます。ご了承ください。



少し前のある朝の出来事です。

ちょうど小学生の通学時間と重なっている時間に駅まで歩いている最中にとってもほっこりとしたお話です。

私とは反対方向から、数人のお友達と楽しそうに話しながら歩いていた1人の女の子が、突然私の前を横切って行ったので、ドキッとして、少し歩みをゆるめて、女の子が行った先をみるとそこには道祖神がありました。その道祖神の前で女の子は、立ち止まるとずっと手をあわせたのです。そして、先に歩いて行った友だちを小走りで追いかけて、また楽しそうに学校に向かって歩いて行きました。

それはわずか数秒の時間の出来事だったのですが、私は頭の中で色々と思いをめぐらしました。とっても自然なスマートな行動に私はびっくりすると同時に、あの子は毎日毎朝お祈りしているのかなあ、今日だけ何かあって特別にお願いがあったのかなあ、普段みんな見過ごしている道祖神に手を合わせる小学生なんてすごいなあ、ご両親も同じようにされてるのかなあ、などなど。駅までのわずかな時間にずっと色々と考えてしまいましたが、ちょっとした出来事に心があたたり、一日さわやかに過ごせそうって感じさせてくれた女の子に感謝しながら電車に乗りました。周りのちょっとした行動で心安らくなるのはほんとうに素敵ですよ。

事務局より

令和7年度駒澤会奨学金 受給学生決定のご報告

今年も「駒澤会奨学金」の学内募集が行われ、昨年を大きく上回る136名からの応募がありました。大学の奨学金委員会により、慎重かつ厳格な審査を行い、40名の学生の採択を決定いたしました事をご報告いたします。

近年の物価高騰の影響などにより、学生の生活もひっ迫しており、応募者数を見ても、本奨学金の存在は大変大きいものとなっております。貴重なご支援を賜り感謝申し上げます。

令和7年7月14日（月）に奨学金授与式を執り行い、駒澤会役員・村松学長ご出席の元、受給が決定した学生全員に、会員の皆様の思いをお伝えいたしました。授与式当日の様子や受給学生のインタビューなど、次号の駒澤会だより第43号にてご報告予定です。

引き続きのご支援、何卒よろしくお願いいたします。

行事予定のお知らせ

【大学】

8/1～9/15	夏季全学休業期間
9/16～	後期授業開始
10/15	第143回開校記念日
11/1・2	オータムフェスティバル

【駒澤会】

8/22	教育後援会との懇親会
10/18・19	秋の研修会（★）
10/25	役員会

※（★）は案内を同封しております。

駒澤大学

駒澤会

